

下田市内の指定文化財 その24

下田市指定史跡 欠乏所跡

所在地 下田市3丁目
指定日 昭和51年5月27日
幕末の、日米和親条約の締結により、下田は日本で初めての外国船が自由に入出りできる開港場となりました。幕府は条約締結後も貿易を拒み続けましたが、実際には欠乏所において日本人商人と外国人船員の間で商品売買が始まっていた。



欠乏所跡

日米和親条約によって、日本は渡来する米国船に薪水食糧石炭等の欠乏品を供給する義務を負いました。開港場下田では、下田奉行が取り仕切る中、当初は航海に必要な物資の供給に限定していましたが、やがて、米国の強い要求により、陶磁器や漆器、反物、下駄、箱根細工など航海に関係

ない土産物や雑貨まで売買されるようになっていきました。ペリー来航時には、米国船乗組員が自由に町の商店で品物を選ぶことができたのですが、多くの外国船が下田へ入港するようになると、幕府は密売と取引品目の拡大を防ぐため、幕府公認の商品陳列の場である欠乏所を設け、交易禁止としながらも商品売買を認めるようになりました。当初欠乏所は、外国船が入港する毎に市内寺院などで臨時開催されていましたが、安政元年の天津浪により町が大被害を受けたため、翌安政2年(1855)、幕府は復興と並行して同心町(現在の3丁目付近)に外国人応接場と御用所、欠乏所を兼ねた建物を開設しました。欠乏所での商売の様子は、幕府役人が同席する中、商人は対話を禁じられ、日本語とオランダ語で書かれた値札をもとに外国船員が商品を選ぶというもので、売り込みには幕府御用商人だけでなく下田の商人も参加し、扱ひ商品も



6/8 下岡蓮杖翁に届け

下田公園内蓮杖台で下岡蓮杖翁顕彰慰霊祭が行われました。読経、献花の後、下小6年生70名が「愛の正長、技の蓮杖」の歌詞の校歌を合唱。また、ボランティアガイドによる蓮杖の話も行われました。



6/21 これからもお元気で

近く100歳を迎える、土屋いそさん(加増野)と山田あゐさん(横川)を市長が訪問、記念品を贈り長寿を祝いました。お二人ともこれからもお元気で過ごしてください。



6/17 父母や仲間の声援を受けて

第25回神新・伊豆地区交流少年柔道大会が下田小学校で開催されました。神津島、新島、利島、式根島と伊豆各地から13団体、192名の小中学生が参加し、団体戦と個人戦で日頃の鍛錬の成果を競いました。



6/22 田原くん 幅跳びで全国大会へ

全国小学生陸上競技大会県選考会の5・6年走り幅跳びで優勝した田原亘くん(大賀茂小)が市長を訪問し、全国大会への出場を報告。田原くんは「5mを跳んで決勝に進みたい」と意気込みを語ってくれました。



6/6 チームワーク良く作品づくりに挑戦

外浦海岸で浜崎地区子供の砂の造形大会が開かれました。1年生~6年生までが協力し、タコやクラゲ、アニメのキャラクターを製作し出来栄を競いました。優勝は、「アオザメ」を作った外浦子供会でした。



同心町に完成した欠乏所の模型(平野屋蔵)

刃物や武具、地図などを除く雨傘から鉢植え、鳥類などの小動物まで広く取り引きされていました。値段については、貨幣の交換比率が日本側に有利だったことに加え、冥加金(雑税)が加算されたことにより市価の10倍以上で売られていたと言われており、その是正は後日来日した米国総領事ハリスの重要な任務の一つとなりました。安政6年、横浜が開港され、下田が開港となると、欠乏所もその役目を終えました。欠乏所跡は、今日まで続く欧米諸国との貿易の原点を示す重要な史跡として下田市の指定文化財となっています。



予期せぬ心臓発作(急性心筋梗塞)のためしばらく公務を離れておりました。多くの市民の皆様や関係者にご迷惑をおかけいたしました。健康には十二分に気を配っていましたが、自分で感じていた以上にストレスもたまっていたようです。連休最後の5月6日、急に強い胸痛に襲われ近くのクリニックで診察を受けたところ心筋梗塞と診断され、救急車で順天堂病院へ搬送され緊急手術(PCI)を受けました。PCIとは、心臓の血管の狭くなった部位や詰まってしまった部位を広げる治療です。風船の付いたカテーテルを血管に挿入して膨らませ、ステント(金属の輪)を留置したり、狭くなった部位を削り取ったりして血管を広げるのです。発作を起こした動脈以外に、もう1本詰まった血管があり、結局2回の手術を受ける結果となりました。長期の入院にあたり見舞状や留守宅へ励ましのお電話等いただきありがとうございます。少しずつ体調も戻って参りましたが、制限しながらあります。公務に復帰してあ

ります。昨年の秋、市の親善大使を受けていただいた料理研究家、栗原はるみさんをお迎えして地元では初めての「料理教室&トークショー」が下田東急ホテルで聞かれました。はるみさんの人気と、料理が味わえるということ、地元はもちろん東京や兵庫などからの参加者もあり、定員の86名はすぐ満席になってしまいました。メニューは下田産の食材を生かした「キンメダイのクリームコロッケ」「キンメと野菜のミックスフライ・タルタルソース添え」「ひじきと豆腐のサラダ」「マンゴープリン」の4品をデモンストレーション形式で紹介し、同じレシピを含むホテルシェフによる特製ランチピュッフェを全員で味わいました。今後とも栗原はるみさんのご協力をいただき、下田の美しい景色を眺めながら、健康的な海の風(海洋浴)を浴び、下田の食材をふんだんに使った美味しい料理を堪能する企画を全国に発信していきたいと思っております。



下田市長 石井直樹

アクセス
伊豆急下田駅より徒歩15分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055